

7/28

ワークショップ

## シンク→ダイアログ For our Life design



大崎さんの講演終了後、グループになって、講演の感想や考えたことを話し合い、聴き足りなかったことを大崎さんに質問しました。(講師大崎麻子さん、ファシリテーター高崎恵さん)

### 大崎さんのお話

日本は、国連加盟国であり、人権に関する基本的なもの(条約等)は、全て批准しています。ところが、世界経済フォーラムが2017年に発表したジェンダーギャップ指数において日本は144か国中114位、政治と経済の分野で低くなっています。「意思決定のポジションに女性が少ないこと」を意味しています。政府は2020年までに管理職などの意思決定ポジションに占める女性割合を3割に、という目標を掲げています。全体の意思決定に影響力を行使するには、最低3割は同じ属性の人が必要といわれているからです。現在、国際的には「取締役4割女性」が数値目標になっています。

### 大崎さんのお話

政府や企業のトップから、地域のリーダーまで、これまで意思決定を担ってきた層は、男性が中心です。「ジェンダー平等」や「女性のエンパワーメント」の必要性がピンとこない人も多い。私の経験上、先進国でも途上国でも、「経済合理性」の観点から話をするすると理解を得やすいです。男性と女性が一緒に物事を決めていった方が「全体が良くなる、(地域や企業が)活性化する」などメリットをいくつか具体的に見せる。また客観的な「データ」や「分析」を持って行くのも大事です。かたくなな人もいますが、必要性を理解する人は必ずいるので、そういった方々を味方につけて、少しずつ前進していくことかなと思います。

### 参加者からの質問

日本の状況や・現状について教えてください。



### 参加者からの質問

今日聞いたことをそれぞれの場所で実践しようとした時にどう広め、伝え、大切なこととして変えていく力にできるのか、「丁寧な丁寧な議論を重ねて」の具体的な手法を教えてください！



### ワークショップに参加された方の感想

- ・講演で聴けなかった内容に切り込んでいただいて、とても充実感がありました。
- ・日本の現状をお聞きすることができ、満足しています。また、普段話をしない方と話し、いろいろな意見をお聞きすることができました。

7/28

小中学生のための  
ワークショップ

## ゆめをみ、ゆめをたてる!

毎年恒例の子ども向けワークショップ。今年は小中学生を対象に、家をデザインしました。このワークショップでは、時間内に完成、結果を出すことよりも、一人ひとりが自分のペースで自分が何を作りたいのか考え、自分で材料を選んで、作り上げていくというプロセスを重視しています。

子どもたちは、スケッチブックに自分の作りたいものを描いたり、画用紙、色とりどりの箱、シール、ボタンなどの材料を選んだりして、一人ひとりが思い描く家づくりに取り組んでいました。

子どもたちは、みんなの作品に同じものは一つとしてなく、一人ひとりが多様な考えを持っているということを体感していました。



講師：高崎正治さん  
(王立英国建築家協会名誉フェロー建築家)

### 作品の一部を写真で紹介します。

